日本中国語学会々報　2016年6月

http://www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶 1
2016 年熊本地震被災会員への特別措置について 2
支部例会実施報告　2016.1-2016.5 3
会議報告 5
全国大会および例会開催のお知らせ 10
事務局からのお願いとお知らせ 11

ご挨拶

木津祐子（日本中国語学会会長）

この度、神戸市外国語大学太田斎前会長の後を承け、2016～17 年度の事務局をお預かりすることとなりました。幸い、副会長を筑波大学の佐々木勲人さんに、また京都大学の池田巧さん、立命館大学の島津幸子さん、同志社大学の中西裕樹さん三名に幹事をお引き受けいただき、それぞれが情報収集・発信、会計管理、会員管理を分担するという体制も整い、何とかそろりそろりと船出することができました。

神戸外大から様々な荷物が宅急便で到着し、さてゆっくり学会事務に慣れていこうと考えていた矢先の 4 月 14 日夜、熊本で大きな地震が発生しました。二日後（感覚的には翌日）の 16 日未明にはその本震とされる大地震が、さらに大分でも同規模の地震が発生したことにより、のんびり構えていた意識を一新せねばならない事態となりました。被災地の会員の方々に対し、学会として可能な支援は何かを探る中、学会 Web サイトに、2011 年の東日本大震災の際に設けられた「多言語・情報弱者対応災害支援リンク集」がまだそのまま存在していることに気づきました。すぐにウェブリソース委員会に連絡をしたところ、迅速にそのページを今回の地震に対応する形に更新し、会員に向けてのメールマガジン号外も発行していただきました。このような一連の皆さんの奮闘を見る中で痛感したのは、一つのバトンを受け取って、それを前につなぐことの大切さです。もちろんそれは頭ではわかっていてこれまでも口にしてきたことではありましたが。

先の地震で被害を受けられた別府は、秋の大会開催校、立命館アジア太平洋大学（APU）の所在地です。開催校代表の前田真砂美さんからは、幸い建物の被害はほとんどなく、一時帰国していた留学生も戻り、大学の日常は回復されつつあるという嬉しい報告をいただきました。そして、秋には皆さん是非別府にお越しください、との呼びかけも届いています。着々と準備を進めてくださっている様子を聞いて、頼もしい気持ちでおります。

会員の皆さん、11 月 11 日・12 日の両日は、別府 APU でお会いしましょう。従来は、東京

以外の地方開催では、出席者数が残念ながら減少する傾向がありましたが、今年の別府大会では、その前例を覆すくらい出席者が集まると良いですね。ちょうど、学会研究発表・ポスターセッションの受付期間が終了し、7月には審査の結果が発表になります。

会員の皆さんの積極的な参加を心より祈っています。

2016 年熊本地震被災会員への特別措置について

4 月 14 日に大規模な地震が熊本県を襲って以降、今も余震が完全には収まらぬ中、被災された会員及びご家族の方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

日本中国語学会では、地震発生以来、可能な限り会員の被災状況の収集につとめ、学会として何ができるかを検討してまいりましたが、5 月 22 日開催の理事会において、被災者の方に対し本年度会費免除の措置を執ることを決定しました。対象は原則として被災地に住居または勤務先がある会員で、学生さんの場合はご実家が被災地域にある場合も含み、被災された会員本人の申請によって実施されるものです。また、新入会の時期でもあることから、新入会員も、入会時の申告により、初年度の会費を免除することといたしました。

会員の皆様が、一日も早く平常の生活が取り戻せますよう、心より祈念しております。手続きの詳細についてはどうぞ、学会ウェブサイトをご覧ください。　　（会長）

http://www.chilin.jp/osirase/menjo.html

支部例会実施報告　2016.1-2016.5

◆関東支部例会

◇2016 年 1 月 9 日（土）東京大学

・董冰華（長春理工大学・東京大学）：漢語普通話的新起點？―《中原雅音》的再輯佚與新研究

《中原雅音》是一部記錄北方時音的重要韻書，今已亡佚。我們從《韻學集成》《同音字鑒》《漢吳音徵》等國內外多種文獻中，對《中原雅音》再次做了窮盡式的輯佚，經甄別與整理，共輯得 1655 條（其中 208 條新材料）。在此基礎上，首次最大程度地部分復原了《中原雅音》，幷重新分析了該書的音系特點，主要表現爲：全濁聲母清音化、入派三聲、疑母消失等。研究認爲，《中原雅音》的成書年代介于宋、元之間，應早于《中原音韵》；其音系及語音特點與《中原音韵》相近，能够較好地解釋現代漢語普通話聲、韵、調的發展演變規律。由這個新的起點，可以重新審視“《中原音韵》是漢語普通話鼻祖”的相關問題。

・伊藤大輔（目白大学）：現代中国語の「後置修飾」について

現代中国語の V1+N+V2 という構成素列においては，V2 が N を後ろから修飾すると見做し得る，あるいは見做さざるを得ない，いわば「後置修飾」と呼ぶべき現象が散見される。その例として，“有饭吃”（食う飯がある）のような V1 が“有”からなる例は複数の研究や参考書等で言及されてきたが，V1 がその他の動詞からなる例については相対的に言及が少ない。本発表は，V1 が“有”以外からなる実例（“缺饭吃”（食う飯に事欠く），

“需要刀子切”（切るためのナイフが要る）etc.）が存在することを確認し,後置修飾の各例に通底する特性を帰納的に描き出すことを目的とする。また,そうした例が投げかける理論上および教育上の問題についても考察する。

・ 加納希美（愛知大学・非）：拡張二重目的語構文におけるＳ類臨時量詞の描写機能

二重目的語構文の拡張的表現では“她泼了我一脸酒”のように非三項動詞が述語動詞におかれることがあるが、その際数量詞にはしばしば“一身”“一脸”等のようにＳ類臨時量詞（量詞として借用された身体部位名詞）が用いられる。この種の拡張構文の多くは従来指摘されてきたように「攻撃」として解釈可能な事象を表すが、時に、間接目的語にふりかかる「被害」として偶発的な遍満状態の出現を叙述する例も観察される。本発表では「攻撃」や「被害」を表し得るこの種の拡張構文の成立要因について、二重目的語構文の構文的意味や動詞の特徴と併せて、Ｓ類臨時量詞の描写機能との関連を考察する。

◆北陸支部例会

◇2016 年 3 月 5 日（土）富山大学

・ 劉聰（新潟大学・院）：中国語の進行相について　―進行相における語気助詞「呢」について―

中国語の進行相については進行相を示す「在」と「着」の使い分けが最も注目を浴びているが、今までの研究に挙げられてきた例文を見ると、進行相を示す「着」に関する例文のほとんどに「他吃着饭呢。」のように語気助詞「呢」が付いていることが分かる。しかもその「呢」を除くと例文は「他吃着饭。」のように何らかが足りなく感じ、非文になる。一方「着」を除くと「他吃饭呢。」となり、意外と文章はまだ成立する。本研究は用例比較を通し、進行相形式における「呢」は語気助詞の働きがありながらも進行相を示すことを証明し、更に進行相を示す「呢」と「在」と「着」三者の関係を明らかにする。

・ 賈麗穎（新潟大学・院）：結果補語における“完”と“过”について　―文法的使い分けと意味的相違の比較研究―

“完”と“过”について、近年様々な観点から研究が行われているが、両者が結果補語として具体的にどのような意味機能を持つのかという問題と両者の意味的相違については、先行研究では明確な分析がなされていない。本稿では用例観察を通し、以下の問題を解明する。(1)意味論と構文論の観点から両者それぞれについて叙述することにより、共通点と相違点を比較分析する。(2)両者の前の動詞内部の発展過程を図に示しながら比較し、それぞれの特徴を明らかにする。(3)両者が統一構文で“完”と“过”を述語としている場合の“V”を動詞分類の観点から分析し、比較する。そのうえで、統一構文で置き換えられるかどうかという問題を検討する。

・ 福田翔（富山大学共通教育センター）：可能補語〈-得/-不得〉の許可用法の考察

本発表は、「許可」を表す可能補語〈-(不)得〉の発生メカニズムを明らかにする。考察により、〈-(不)得〉の許可用法は、結果補語からなる自然被動文の語順やその意味的･機能的特徴と平行的に捉えられることが分かった。また当該形式には、通言語的に指摘されている“root possibility”（状況可能）から“permission”（許可）への派生関係も見られる。そこで、〈V(不)得〉を述語とする文の構文的特徴、ならびにそこから類推される機能および意味を明らかにし、さらに他形式との対照を通して、許可用法の発達に関連すると見られる間主観性の観点からも、〈-(不)得〉の許可用法獲得の原理を論じる。

・王雪竹（一橋大学・院）：「是 V(0)的」の「的」の意味機能に関する一考察　―文の階層性という観点から―

本発表では、文構造の階層性という観点に基づいて「是 V(0)的」を焦点型とモダリティ型に分類した上で、それぞれの「的」の意味機能を考察した。従来の研究では「是 V(0)的」の「的」を一律に名詞化標識、もしくは強調、肯定などを表す語気助詞として捉えるものが多いが、本発表では「是 V(0)的」構文を二分して考察した結果、焦点型の「的」は、V(0)が「是…的」構文に埋め込まれる場合の「了」「过」の代用として働くアスペクト助詞であることが分かった。そしてモダリティ型の「的」は、話し手が叙述内容の真偽を肯定判断したことについて確認済であるという二重確認を示すために用いる聞き手目当ての対人的モダリティ助詞であるということが分かった。

・楊敏（早稲田大学）、砂岡和子（早稲田大学）：ICT 素材の中国語教育への応用　―四字熟語を例として―

本発表は、海外に構築した「Web 成語知識庫」と日本の「現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCW）」を串刺検索して中国語の四字成語と日本語の四字熟語を調べ、それぞれの由来や用法、流通状況などについての学習成果をオンライン BBS 上で共有するという ICT 素材の中国語教育への応用例を紹介する。課題報告の分析から、学習者は四字成語の存在をより身近に感じるようになり、四字成語に対する理解を深めることができ、日中両言語とも積極的に使用する傾向が明らかになった。また、日中言語文化や思想交流の再発見など主体的な能動学習の相乗効果が観察できる。本調査結果を踏まえ、今後 ICT 素材を中国語教育への応用の可能性と汎用性について考察したい。

◆中国支部例会

◇2016 年 5 月 8 日（日）広島大学

・盧濤（広島大）：中国語統語範疇の再検討　―日本人中国語学習者の誤用例をてがかりに―

本発表は、日本人中国語学習者の誤用例を手がかりに、助動詞、前置詞、接続詞の 3 つにしぼって、現代中国語の統語範疇を再検討するものである。助動詞としては“愿意”と“想”、“必要”と“可能”を取り上げ、前置詞としては“前置前置詞”と“後置前置詞”、“用”と“拿”および“替”と“代”を取り上げる。接続詞については、“移動可能接続詞”と“移動不可能続詞”、“連体接続詞”と“非連体接続詞”、さらに“単音節接続詞”と“二音節接続詞”という再分類を試み、その統語的振る舞いの特徴を素描してみる。

・荒見泰史（広島大）：日本人学習者への中国語教育について

中国語教材の多くが『高等学校外国留学生漢語言専業教学大綱』に拠るようになって久しいが、日本人に対する教育では、既習の漢字をいかに活用すべきかなど議論の余地は残されている。広島大学では、プリンストン大学普北班（Princeton in Beijing）の教育モデルなどで改めて見直されるようになった AL を応用しつつ、字音の習得を徹底し学習者既習の字形、字義に結び付けて漢語認知を促進する技法を中心として、一年次教育時間 240 時間で基本的に CEFR の B1（HSK３級レベル）を達成し、少数ではあるが B2（HSK4 級レベル）に達するようになった。本発表では、そうした教育モデルと指導技法について報告し、議論を進めたい。

会議報告

■ 編集委員会

◆2016 年度第 1 回編集委員会(『中国語学』263 号)

日時：2016 年 3 月 19 日（土）13 時～17 時

場所：筑波大学東京キャンパス 434 ゼミ室

出席者：佐々木勲人（委員長)、秋谷裕幸、石崎博志、王亜新、小野秀樹、橋本永貢子、松江崇（以上委員)：[欠席] 沈力（委員、海外出張のため)

【議事】

1. 263号の依頼原稿について

・ 2015年度全国大会で講演を行った北京大学の郭锐氏と、東京大学の楊凱栄会員に論文寄稿の依頼をすることとした。

2. 『中国語学』263号の投稿論文について

・ 投稿総数24篇。審査の結果、18篇を受理した。18篇の分野別内訳は：漢字２、方言音韻２、方言語彙１、現代語彙１、歴史文法１、現代文法11。受理した18篇について、査読者各３名を決定した。査読報告書の提出期限を5月9日（月）とし、5月21日（土）の第２回編集委員会において採否の決定を行なうこととした。

3. 2016年度学会奨励賞の候補者について

・ 262号に掲載された８篇の論文の執筆者の中から第一段階として３名を選出した。5月の第２回編集委員会において候補者を決定することとした。

◆2016 年度第 2 回編集委員会(『中国語学』263 号)

日時：2016 年 5 月 21 日（土）13 時～17 時

場所：キャンパスプラザ京都第２会議室

出席者：佐々木勲人（委員長)、秋谷裕幸、石崎博志、王亜新、小野秀樹、沈力、橋本永貢子、松江崇（以上委員)。

【議事】

1. 『中国語学』263 号投稿論文の採否について

・ 受理した 18 篇の投稿論文について査読結果に基づいて審議した結果、６篇を要二次審査、12 篇を不採用とした。要二次審査の６篇については、7 月 1 日（金）必着で修正論文の提出を求め、編集委員会において二次審査を行い、掲載の可否を最終決定することとした。

2. 2016 年度学会奨励賞候補者について

・ 第１回編集委員会で選出した３名の執筆者について審議を行い、学会奨励賞候補者を決定し、理事会に報告することとした。

3. 投稿用テンプレートの変更について

・ 投稿用テンプレートに、注の字落としに関する記載に誤りがあることが発見されたため、修正することとした。

■ 大会運営委員会

委員：宮本徹（委員長)、飯田真紀、石村広、于康、更科慎一、鈴木慶夏、千葉謙悟、張盛開、前田真砂美、三宅登之

1. 組織

・ 第 66 回全国大会に向けて、審査・編成を扱う小グループを設けて、役割を分担した。

2. 今年度の大会について

・ 第 66 回全国大会は立命館アジア太平洋大学において、11 月 12 日（土)、13 日（日）に開催する。陶紅印氏（カリフォルニア大学ロサンゼルス校)、馮勝利氏（香港中文大

学）による招待講演を予定している。

・研究発表応募規定、ポスターセッションガイドライン等の応募関連書類を策定し、ウェブサイトに掲載した。応募期間は 5 月 30 日（月）より 6 月 13 日（月）までである。

・ワークショップの企画応募期間を 5 月 1 日から 5 月 28 日までとしたところ、1 件の応募があり、審査の結果、これを採用することとした。概要は以下の通り（発表タイトルはいずれも仮題）

メインテーマ：「中国語史における疑問詞の指示特性――〈人〉を解とする疑問詞を中心として」

企画：大西克也

発表：大西克也「上古中国語における疑問詞の指示特性」、木村英樹「疑問詞選択の指示的要因――記述か指定か、個か範疇か」、木津祐子「近世中国語における疑問詞の指示特性」、松江崇「中古中国語における疑問詞の指示特性」

司会者：小野秀樹

・託児所の設置については、昨年に引き続き、開催校の協力を得て実現に向けて準備中である。詳細は後日ウェブサイト上で告知する。

3. 来年度の大会について

・第 67 回全国大会については、中央大学（多摩キャンパス）にて開催する方向で検討を進めている旨を理事会に報告することとした。詳細については、今後当校と協議の上決定する。

■ 2016 年度第 1 回理事会

日時：2016 年 5 月 22 日（日）14 時～17 時

場所：キャンパスプラザ京都 2 階第 3 会議室

出席者：木津祐子（会長）；佐々木勲人（副会長兼編集委員長）；竹越孝、三宅登之、山崎直樹（以上理事）；宮本徹（大会運営委員長）；鈴木慎吾（ウェブリソース委員長）；池田巧、島津幸子、中西裕樹（以上幹事）

欠席者：遠藤光暁、加藤晴子、古川裕（以上理事）；平田昌司（辞典編纂委員長）

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 役員・委員等の異動

・評議員交代

北海道支部：鈴木慶夏（釧路公立大）
→松江　崇（北海道大）

関東支部：大塚秀明（筑波大）
→大島吉郎（大東文化大）
落合守和（首都大学東京）
→荒木典子（首都大学東京）
松村文芳（神奈川大）
→石村　広（中央大）
矢野光治（立正大）
→吉川雅之（東京大）
加藤晴子（東京外国語大）
＞［理事］
佐々木勲人（筑波大）
＞［副会長］
→平井和之（日本大）［増員］

東海支部：荒川清秀（愛知大）
→中西千香（愛知県立大）

関西支部：中西裕樹（同志社大）
→鈴木慎吾（大阪大）

中国支部：郭　春貴（広島修道大）
→犬塚優司（島根県立大）
小川泰生（広島大）
→荒見泰史（広島大）

1.2 会員動向（2016 年 4 月 1 日現在）

・ 会員数：

			増減
総会員数（賛助除く）		1209 名	＋7
（内訳）	顧問	6 名	＋1
	名誉会員	23 名	－1
	通常会員	741 名	－27
	ネット会員	333 名	＋29
	団体会員	8 名	±0
	海外会員	97 名	＋4
賛助会員		24 社	＋1

※増減は昨年 10 月 1 日を基準とした数。

2015 年度の除籍者は 34 名。

1.3 事務局の所在地について

［本部所在地］

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学人文科学研究所内

［会員関係］

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

中西印刷株式会社　学会部内

担当：小畑香菜

Tel：075-415-3661　Fax：075-415-3662

E-mail：chilin@nacos.com

1.4 事務局メールアドレスの変更について

・ スパム対策のため事務局のメールアドレスを以下のとおり変更した。

（新）jimukyok_clsj@chilin.jp

2. 支部例会関連

・ 支部例会世話人交代

北海道支部：鈴木慶夏（釧路公立大）

→飯田真紀（北海道大）

中国支部：小川泰生（広島大）

→荒見泰史（広島大）

・ 今年度の例会開催予定

北海道（飯田　真紀会員）：　1 回

関　東（町田　　茂会員）：　4 回

北　陸（山田　眞一会員）：　1 回

東　海（丸尾　　誠会員）：　1 回

関　西（下地早智子会員）：　2 回

中　国（荒見　泰史会員）：　2 回

九　州（植田　　均会員）：　2 回

3. 大会運営委員会報告

宮本委員長より次の報告があった。

（1）委員の交代について

・ 退任：木津祐子、中西裕樹、朱継征（2016 年 3 月 31 日付）

・ 新任：三宅登之、張盛開（2016 年 4 月 1 日付）

※朱継征会員の後任は補充せず欠員とし、2016 年 11 月の委員改選時に規定数に戻す予定。

（2）第 67 回全国大会開催校

・ 中央大学（多摩キャンパス）に内定。

（3）第 66 回大会の準備状況について

①熊本地震発生後の状況（5 月 4 日付前田委員からの報告）

・APU キャンパス内建物への影響は見られず、4 月 25 日より授業再開。

・別府市内の宿泊施設等も通常通り営業中。

②招待講演

陶紅印教授（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）と馮勝利教授（香港中文大学）に招待講演を依頼し内諾を得た。

（4）保育室の設置について

・ 第 65 回全国大会に引き続き保育室を設置する方向で検討中である。7 月末までにウェブサイト上で運営方法を告知し、電子メールによる事前申し込みを受け付ける。

4. 編集委員会報告

佐々木委員長より次の報告があった。

（1）『中国語学』263 号査読結果

・受理した投稿論文 18 本（不受理 6 本）について査読報告書に基づき採否の判定を行い、6 本を要二次審査、12 本を不採用とした。

（2）『中国語学』263 号特集について

・郭鋭氏および楊凱栄会員に論文を依頼することとした。なお、特集は組まない。

（3）学会奨励賞候補者推薦について

・第 2 回編集委員会において候補者を選考した。

5. ウェブリソース委員会報告

・鈴木委員長より、熊本地震を承けて、ウェブサイトの「多言語・情報弱者対応災害支援リンク集」をアップデートしたことが報告された。当該頁のくまモンのイラストは利用申請を行った上で使用している。なお、このリンク集は言語系学会連合のウェブサイトからもリンクされている。

6. 辞典編纂委員会報告

・5 月 20 日に平田委員長が岩波書店編集部を訪問し、現代語文法および文字学関係の項目につき、先行して編集部の作業をすすめるよう提案したことが木津会長より報告された。

【審議事項】

1. 熊本地震に関わる会費免除について

・木津会長より、熊本地震の被災者に対して自己申告により今年度の会費を免除したい旨の提案があり、承認された。今年度会費を振込済の場合には来年度の会費に充当する。申請期間は今年度中とする。

2. 学会奨励賞の授賞について

・学会奨励賞の授賞者を編集委員会の原案通り承認した。

3. 次期全国大会について

・大会運営委員会から、第 67 回全国大会開催校について、内諾のあった中央大学（多摩キャンパス）に依頼したい旨の提案があり、原案通り承認された。開催時期は、今後当該校と相談の上で決定することとした。

4. 会則の改正について

・木津会長から、会則第 9 条 1 項の「会長、副会長の任期は 2 年とし、再任を認めない」を「会長、副会長の任期は 2 年とし、会長の再任は認めない」に改正したい旨の提案があり、次回の評議会および総会に諮ることとした。

5. 名誉会員の推挙について

・ニューズレターに名誉会員の推挙依頼を掲載することとした。

6. その他

（1）内規について

・大会運営委員会の委員数について議論した。

（2）会費納入に関する特別規定（ネット会員制度）の見直しについて

・2011年に施行された当該規定は2年ごとに見直すことになっているため、2017年の見直しに向けて意見交換を行った。

（3）オンライン投票について

・理事選挙にオンライン投票を導入することの可能性について、他学会の現状報告および意見交換を行った。

全国大会および例会開催のお知らせ

第 66 回全国大会開催のお知らせ

すでに学会ウェブサイトでご案内しておりますとおり、今年度の大会は立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）にて 11 月 12 日（土）～11 月 13 日（日）の日程で開催されます。ふるってご参加下さいますようお願いします。

なお、発表の応募受付期間は 5 月 30 日（月）～6 月 13 日（月）日本時間 24 時までとなっています。7 月中旬に採択者一覧が、8 月初めまでに大会プログラムが学会ウェブサイト上にアップされます。（事務局）

今年度の例会実施予定

各支部の例会実施予定は次のようになっています。

北海道支部：1 回（9 月 23 日）
関東支部：4 回（7 月 9 日、８月、10 月、2017 年 1 月）
東海支部：1 回（11 月）
北陸支部：1 回（2017 年 2 月か 3 月）
関西支部：2 回（6 月 19 日、12 月）
中国支部：2 回（5 月 8 日、2017 年 1 月）
九州支部：2 回（7 月 9 日、12 月）

発表者、参会者ともに歓迎します。ただし、開催時期および回数は変更になることもありますのでご了承ください。開催予定、申込締め切り、連絡方法などにつきましては学会ウェブサイトでご確認ください。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしています。この要旨は本会ウェブサイト上の例会案内のページでご紹介しています。なお、開催に関する詳細は、各支部例会世話人までお問い合わせ下さい。（事務局）

事務局からのお願いとお知らせ

■ 名誉会員の推挙について

名誉会員の推挙は、9 月 30 日までに推薦文を添えて事務局宛にお願いします。なお、名誉会員称号授与の条件は、年齢満 70 歳以上で継続して 20 年以上本会会員であった方のうち、本会の発展に功労のあった方となっており、評議会の審議を経た上で会員総会において決定されます。

■ 住所不明の会員

お知り合いの方がおられましたら、事務局までご連絡をお願いします。

井上貴仁、上野倫代、王艶霞、許羅莎、呉忠恩、小金澤豊、小鹿洋子、朱新建、髙岸晃夫、張金平、趙晶晶、張志凌、張芃蕾、長谷川良一、潘藝梅、李孟娟、劉小俊、林立梅、路玉昌、鄭良偉、張群、石慧敏、吳睿純、東会娟、崔文燕、森博、熊娟、辛奕嬴、張睿、呂陽陽、申祐先、許慧玟、劉春芳、梁婷婷、王暁丹、于亜秋、羅希、許挺傑、樊涛、劉淼、崔春子、李勁栄、沈庶英、Miguel Cortico dos Santos

■ 2016 年度会費納入のお願い

先にお送りした請求のご案内の通り、本年度会費（一般会員6,000円、ネット会員5,000円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。

郵便振替　加入者名：日本中国語学会

口座番号：00980-6-282216

『中国語学』バックナンバーなどに記載されている旧口座には振り込まないようお願いします。なお、これまでの会費が未納の方は請求のご案内に記載していますので、一括してご入金下さい。もし記載請求金額が15,000円以上となっておりましたら、今年度ご入金いただけませんと、会則《会費納入に関る内規》により除籍となりますのでご注意下さい。なお除籍者名は冬のニューズレター上で公表されます。

■ 退会について

退会は、届出のあった年度末を以て退会となるように手続きをすすめます。届出時から過去に溯って退会扱いとすることはできません。加えて退会は、届出た年度を含め、会費の未納がないことが前提となっています。無用の混乱を避けるため、退会をご希望の方は、必ず会費納付後の年度内にお申し出下さい。

■ 予稿集の販売

過去の大会予稿集は好文出版にてお求めになれます。第61回までは1500円、それ以降は2000円となっています。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせ下さい。

■ 事務局の連絡先　2018 年 3 月まで

事務局への郵便物は、

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学人文科学研究所内

日本中国語学会事務局

あてにお願いします。また各種のお問い合わせは、学会ウェブサイト（http://www.chilin.jp/）内の「お問い合わせ」ページをご利用ください。

日本中国語学会々報　2016 年春季
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒606-8501
京都市左京区吉田本町
京都大学　人文科学研究所
E-mail: jimukyok_clsj@chilin.jp
URL: http://www.chilin.jp/
発行日：2016 年 6 月 20 日

2016 年 6 月

訃　報

本学会名誉会員である中山時子先生（お茶の水女子大名誉教授）におかれましては、2016 年 1 月 22 日に 93 歳の生涯を閉じられました。また顧問である慶谷壽信先生（東京都立大学名誉教授）におかれましては、2016 年 5 月 27 日に 80 歳の生涯を閉じられました。慶谷先生は 1992 年から 1994 年まで本学会理事長を務められました。ここに会員各位にお知らせするとともに、永年にわたって本会ならびに斯学の発展に寄与された両先生の多大な功績とご尽力に感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

2016 年 6 月

日本中国語学会会長　木津 祐子